

福岡県立山門高等学校



# 同窓会だより

2014.3.1

第17号

今年度入会者数 199名  
同窓会員総数 22,781名

## 山門高等学校 OB を迎え 講演会



演題

「山門に生きる」

(講師)

板橋 正勝氏

(昭和40年卒)

同窓会副会長  
司法書士・行政書士

平成25年11月9日(土)  
山門高校体育館 於

福岡県立山門高校百一年年に当り、同校の同窓会副会長である板橋正勝氏を迎え、講演会を開催いたしました。

板橋氏は、山門高校時代の恩師との交流や選挙権について(権利であるとともに義務であること)そして中国・シルクロードを訪問され感じられたことなど、生徒たちに広い視野や関心を持ち、山門高校生としての誇りと志を高く持つことを熱く語りかけられました。

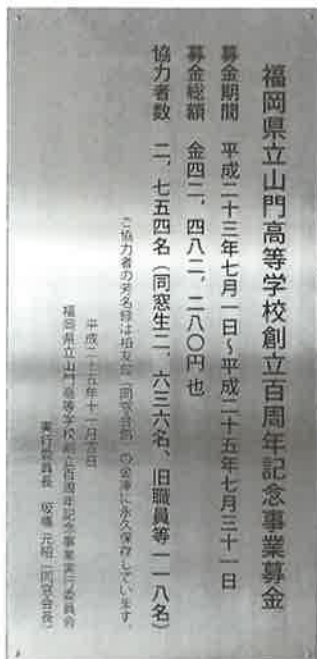
ご協力  
ありがとうございました。

福岡県立山門高等学校  
創立百周年記念事業募金

募金総額 金 42,482,280 円 也  
協力者数 2,754 名  
同窓生 2,636 名  
旧職員等 118 名

ご協力者の芳名録は柏友館(同窓会館)の金庫に永久保存しています。

平成 25 年 11 月 吉日  
福岡県立山門高等学校創立百周年記念事業実行委員会  
実行委員長 板橋 元昭(同窓会長)



▶ 柏友館の玄関口、左壁面に掲示しています。

## 継続は力なり



山門高校同窓会  
会長  
板橋 二元昭

二〇二〇年のオリンピックが東京で開催されることが決定し華やいだムードに包まれて新しい年を迎えることが出来ました。「オリンピックを成功させたい」と願う日本国民に大きな目標ができて国中が明るくなつた気がします。

さて同窓生の皆様には世界の各地で、国内の津々浦々で、元氣にご活躍されていることと拝察いたします。お陰様で私達の母校福岡県立山門高等学校は今年度、次なる百周年に向うスタートの年を迎えました。同窓生の総数は百一年度の卒業生一九九名の入会により二二、七八一名となりました。そして、偶々今年度は同窓会の役員改選の年でしたので末尾記載の通り新役員を決定しました。空席だった名誉会長には平成十三年から十二年間関東支部長をつとめていただいた前衆議院議員で元運輸大臣の古賀誠氏が総会の承認を得て就任されました。副会長は会則を改めて枠

を七名とし、年代毎の理事の皆さんの推薦により七十代から女性一名、六十代五十代から男女各一名宛計四名、富職として関東支部長・福岡支部長の二名、計七名が決まりました。又男性に偏重している学年理事との調整のため全体推薦理事として六十代五十代四十代の女性各一名宛計三名が決定しました。

継続は力なりと申しますが継続して活動してこそ存在価値があります。学校創立四十五年目の一九五七（昭和三十二）年に設立された同窓会は今日まで五十六年の歴史を積み重ねてきました。ここまで来れたのは母校に対する愛と献身の心を持ち続けていただいた全同窓生のお陰であります。

しかし、昨今の日本は少子高齢化現象が顕著であり、これから年を追って高校生の数が激減してゆくことを考えますと母校の存続と発展のためには同窓会は尚一層充実を図り努力を続けゆく覚悟が不可欠であります。同窓会には三つの課題があります。

一つは、九十周年記念事業として建設した同窓会会館「柏友館」をインターネット・パソコンを駆使できる事務局機能の拠点として整備し本部支部の日常

活動に生かすことであります。事務局機能がしっかりしていないと組織は崩壊の危機に瀕するからです。

二つは、国内で同窓生が数多く居住している主要地域の支部を中心に同窓生間の親睦と福祉、あるいは在校生との交流等を通して相互に支援のネットワークを拡げ、母校に誇りと自信を持てる関係をつつてゆくこととであります。そのためには関東、関西、福岡の三地域には是非支部が必要であり、関西支部の発足が望まれるところであり

ます。三つは、百周年事業の一つであったスポーツ文化活動支援基金を更に拡大し近い将来法人格をもつて運用できるまでに充実させて母校の学術スポーツ文化活動を支援することです。先ずは進学面で昭和四十年代～五十年代に旧制中学を前身とする伝統校等を凌駕して負けない実績を残した頃の輝いた山門高校の活力の復活であり、スポーツ文化面では在校生の中より全国レベルで活躍出来る人材を育てる環境を整備することとあります。同窓生の皆様の更なるご理解とご協力をお願いする次第です。

## 枠にはまるな



山門高校  
校長  
井上 正明

自分の限界を自分で決めていないか。

過去の常識にしばられていないか。

本来人間は自由な存在だ。自由であるはずの人間が、自ら自由を手放してどうする。

しよせん限界も常識も過去のもの。自由な創造を邪魔する過去など忘れてしまおう。

新しい知恵で立ち向かえ。時代の先を行け。今までの枠の中に未来はないのだから。

そう、僕たちはなんにでもなれる。

僕たちはどこへでも行ける。

枠にはまるな。

僕たちはどこへでも行ける。

僕たちはどこへでも行ける。

僕たちはどこへでも行ける。

というメッセージが、東京モーターショウのパネルフレックの中で目につきました。

人には無限の可能性があるとは思いません。しかし、無限の可能性に挑戦することができると思います。

なにかをやる前に躊躇してやらないよりも、やってから後悔するほうが良い。

若さとは、ひたすら自由を望み、決めつけられることを極端に嫌い、常識を疑い、自分という人間を過信し、自分が一番と思いつくことかもしれません。

このような若さがあつてこそ、人は現実を直視して、壁にぶち当たり、「我にかえり」大きく成長をするのです。

「枠にはまるな」とは、自分で自分の限界を決めないという事です。自分で自分の限界を決めない限り、人はなんにでもなれるしどこへでも行けるのです。



# 同窓会総会を終えて

前年度実行委員長 平成三年卒 松尾 剛

昨年開催した同窓会総会は、たくさんの方に参加いただき盛会のうちに終了することができました。学校、先輩、後輩、地域の方々のご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

昨年を振り返れば、山門高校にとっては百一年目の新たなスタートの年でありました。今までの百年の歴史と伝統に感謝し、これからはじまる百年に向かっていこうと、「感謝」の二

文字をテーマに進めました。そんな中、講演会の講師としてたどり着いたのが、元ソフトバンクホークスの小久保裕紀氏でした。「一瞬に生きる」を演題に

貴重な講演をいただきました。その後小久保氏は、侍ジャパンの監督に就任され、改めて素晴らしい方に講演いただいたと、実行委員一同喜んでいました。また、心に残る演出として、3部の懇親会時に行った、現役書道部による書道パフォーマンスでした。ライブで披露していただいた、「受け継がれてきた百年の伝統」「新たに築く百年の未来」の書は素晴らしく、来場者

の心に響きました。

この同窓会を通して私は、貴重な宝物を手に入れました。卒業後二十数年の時を経た同期生が、再び力を合わせ、ひとつの事業成功へ向けて頑張っている。こんな機会を与えていただいた山門高校の先輩方と伝統に感謝致します。また、これから始まる同期生との新しい時間も期待で一杯です。

最後になりますが、この素晴らしい山門高校の伝統が、後輩たちへ永遠と引き継がれ、同窓会がますます飛躍することを祈念し、挨拶とさせていただきます。



元ソフトバンクホークス WBC 日本代表監督

小久保 裕紀 氏 ▲



## 役員名簿 (抜粋)

※ 学年選出の理事・評議員名は同窓会ホームページに有

- 名誉会長 古賀 誠 (昭和34年卒)
- 会長 板橋元昭 (昭和32年卒)
- 顧問 (学校長) 井上正明 (昭和47年卒)
- 副会長 (関東支部長) 亀崎英敏 (昭和37年卒)
- 副会長 (福岡支部長) 藤丸 修 (昭和38年卒)
- 富田トミ子 (昭和30年卒)
- 板橋正勝 (昭和40年卒)
- 竹井澄子 (昭和41年卒)
- 前田敦子 (昭和47年卒)
- 田崎 剛 (昭和48年卒)
- 常任理事 千田忠雄 (昭和33年卒)
- 樺島正文 (昭和37年卒)
- 山城正義 (昭和42年卒)
- 本多賢次 (昭和47年卒)
- 角 和弘 (昭和52年卒)
- 桃島博規 (昭和57年卒)
- 井口秀成 (昭和62年卒)
- 全体推薦理事 豊福美恵子 (昭和45年卒)
- 野田千春 (昭和51年卒)
- 西嶋由美 (昭和61年卒)

### 平成 25 年度卒業生 (平成 26 年 3 月卒業)

## 同窓会クラス役員

	男子	女子
1組	川口 謙	山崎紗耶佳
2組	相田 晋吾	梶原 里菜
3組	川口 智史	松本 恵佳
4組	◎森 友喜	◎石橋 麗奈
5組	溝上 雄大	石川 佳

(◎は学年代表)

- 相談役 鹿田久子 (昭和27年卒)
- 江崎鈴子 (昭和31年卒)
- 監事 小川律子 (昭和36年卒)
- 田中俊治 (昭和45年卒)
- 松尾良介 (昭和61年卒)

## 福岡山門会 総会のご案内

【名称】

福岡山門会総会・懇親会

【日時】 平成二十六年四月十二日(土)

午後一時受付 午後二時半開始

【場所】

福岡国際ホール(博多大丸最上階)

〒812-0211 八八五五

【会費】

男性 七千円 女性 六千円

夫婦 一万円

【問い合わせ先】

☎090(3)73(三)574六

樋口 50年卒

樋口 50年卒

平成二十六年年度

同窓会総会に向けて

# テーマ「和・輪・話」

今年度実行委員長  
平成四年卒

岡本 斉直

今回、同窓会総会担当となりまして平成4年卒業生を代表し、この同窓会だよりにて御挨拶申し上げます。

皆様ご承知のとおり、私たちの母校、山門高校では、40歳の節目の年に同窓会総会の担当学年となります。昨年の5月3日に、約20名程度で引き継ぎ式を迎えた我々は、その日から担当学年として、次年度の総会へむけた新たなスタートを切りました。

最初に苦労したのは、やはり実行委員を集めることです。5月3日に集まった全てが実家に住んでいたりで近くで働いていたりする訳ではなく、引継ぎ式のためだけに出席してくれたメンバーが半数ほどでした。つまり、引き継ぎ式に出た中で近くにいるメンバーは10人程度であり、本当に少人数からの船出となったのです。とりあえず、連絡先が分かる同級生に片端から声をかけ、①実行委員には約30名程度が必要、②前日の準備には50名程度必要、③当日の従事には100名以上は必要、と先輩方から伝え聞いた内容や、引継ぎ式に出席し、大変な人数が必要だと感じたことを説明しました。そうこうしながら、少しずつ少

しずつ実行委員が増えていき、担当が決まり、機能し始めて、やっと今の状況までたどり着いたという感じです。やはり遠方に住んでいる同級生がほとんどなので、実行委員が不足している感否めませんが、その分、一人一人が責任を持って、力強く結束し頑張っている次第です。

実行委員会で話し合った結果、今回の同窓会のテーマは「和・輪・話」となりました。山門高校のこれまでの伝統を引き継ぎ、同窓生みんなで「和み」ながら「輪」をつくり、「語り合い」ながら後輩たちへバトンタッチ。そういう思いで、このテーマに決定しました。総会の場でも、そういった雰囲気作りができればと思っております。

また、今回の講演会では、福岡県北九州市出身の元ボートレーサー「植木通彦 氏」をお招きすることとしました。植木氏は、現在、柳川市にある競艇選手育成機関「やまと学校」の校長をなさつ



■日 時/2014年 5月3日(土・祝)  
●第一部 同窓会総会 (受付9:00~) 9:30~ 会場/山門高校体育館  
●第二部 講演会 (一般入場可) 10:30~ 観参加費/2,000円  
●第三部 同窓会懇話会 12:30~  
お問い合わせ: maeda@yamato-hs.yamato-hs.ac.jp



▲平成26年度同窓会総会ポスター

## 進路部より

進路指導主事「富重 真晴 (昭和53年生)」

同窓会の皆様におかれましては日頃から本校の教育活動に対してご支援・ご協力を賜り深く感謝しております。

昨年度は創立百周年にあたり様々な行事にご尽力をいただきました。本年度も百一年目をむかえた山門高校の発展のためにご尽力をいただきありがとうございます。進路指導部としては各学期に先輩から生徒への進路講演会を企画することで進路を身近に考え、先輩方に続く進路実現をめざして指導しております。

五月の進路講演会では「enjoy myself 人生なることなる」の演題で、昭和六十一年卒の松尾良介氏(有)松尾左建 代表取締役)に講演していただき、生徒が自分の仕事や人生について考える貴重な時間となりました。

十一月の創立百一周年の記念講演では、「山門に生きる」の演題で昭和四十年卒の板橋正勝氏(司法書士・行政書士・同窓会副会長)から熱い山門高校への思いと人生において様々なことに興味関心を持ち続けることの大切さを講演していただき、生徒に母校愛と生き方、働くことの意義について考えさせる良い機会となりました。

また、二月十八日にはキャリア教育の一環として、昭和六十一年卒の辺春容子氏(声楽家)に「歌に生き、愛に生き」いつの間にか見えてくるもの」の演題で講演

を依頼しております。

さて、平成二十六年度入試はだいま真つ只中ではありませんが、推薦入試で九州大学1名、熊本大学3名、鹿児島大学2名、長崎大学、佐賀大学、福岡県立大学、広島県立大学、都留文科大学に各1名、法政大学1名、同志社大学2名、西南学院大学2名など順調な結果がでていきます。この同窓会たよりが発行されます頃には「山門桜咲く」のご報告をさせていただきます。この同窓会たよりが発行されます頃には「山門桜咲く」のご報告をさせていただきます。

公務員関係も、みやま市役所2名、柳川市役所1名、福岡県職員2名、福岡県警3名など、のべ30名の最終合格(内定)という素晴らしい成果を上げました。百二年目の平成26年度も、同窓生の皆様のますますのご指導、ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。



平成16年度制定の山門高校エンブレム  
清水山のさし車伝説がモチーフ

### 編集室より

本年の会報17号は、平成3年卒の実行委員会が編集いたしました。快く寄稿していただき感謝いたします。